



開県百年、黒潮国体記念

タイムカプセル

21世紀のひとびとに、現在の和歌山の姿と黒潮国体の記録を伝えるタイムカプセル。みんなの夢と希望を収めて、7月20日和歌山市の紀三井寺運動公園にある国体モニュメントの基部に埋設されました。写真…タイムカプセルに収納品を収める大橋知事、左はタイムカプセル提案者の赤井英之さん。



タイムカプセル収蔵庫の扉に取り付けられた碑文

開県第二世紀の新しい和歌山県づくりを懸賞論文「一〇一提案」に百六編のアイデア

和歌山植物センターの建設

鈴木俊樹 (31) 私立高校教諭 新宮市

和歌山県の開県百一年を記念して、

“開県第二世紀の新しい和歌山県づくりについて県民みんなで考えよう”と懸賞論文を募集していましたが、その入選作がきました。

優秀作

五編

これからの中和歌山県

——自然保護を中心とした——

太田信隆 (40) 放送局職員 和歌山市

開発という名の破壊が進んでいる。人間にとつて自然とは何か。和歌山の自然をどう保全し、活用するか。串本町大島の例をとりあげて自然を破壊する観光開発に予防的なとり組みの必要を論ずる。

全県下で自然破壊の封じ込み作戦を総合的に展開することを提起しながら、「長寿センター」(老人ニュータウンの別称)や学園都市の建設構想などを「緑の中の施設づくり」の観点から強調。さらに、緑化県民運動の具体的な方策や、和歌山名物「グリーン駅伝」の開催を提案している。

地域開発構想について一考察

島本浅夫 (53) 地方公務員 和歌山市

われわれの住む郷土を、県民がこそって期待する社会として進展させていく……その県土開発の方向を現代的視点に立てて地域別に考察したもの。

地域開発の基本方向を、「住民の福祉を基調とする地域開発を積極的に推進する地域」と、「住民の生活基盤の整備と自然環境を主題とし、京阪神、中京の二大都市圏の住民が容易に求められる自然環境を準備する休養圏としての地域」に一分し、さらにその中に含まれる各地区ごとに、特性・機能を新しい角度から考察を加え、それぞれの開発の方向を論じている。

過疎問題について

浜田 稔 (28) 農園自営 中辺路町

過疎地に生まれ、過疎地の土になつていこうとする青年たち

が、過疎の重圧に耐え、汗と苦悩の「新しいムラづくり」と取り組むなかから切り開いた視点は何だったか……

青年らのひたむきな行動記録を通して、過疎地の実態を浮き

ぱりにし、そこからの雄々しい飛躍を試みることを願い、訴え

る。青年に土を残せ」と農地公社設立を提言し、帰農運動と

この植物センターは、山村の産業開発の一環として、また

観光開発の面からも、大きく貢献するものとなつう」と提案し

ている。

郷土への提言

平田寿彦 (40) 地方公務員 湯浅町

和歌山県の今後の開発方向を考えていく場合、現代的視点に立つて、開発資源の再評価を行なうこじから出発しなければならない。

本県がもつ値ある開発資源は①大都市近郊の地理的条件②豊かな観光資源と生活休養圏としての要素③豊富な水資源の三つである。

この三つを有効に組み合わせ、県民福祉の増大を基底とした地域の開発方向を考察していく。

紀北、紀南に分けて、その開発の方向と課題を記述し、新しい開発プロジェクトの構想を提論している。

